

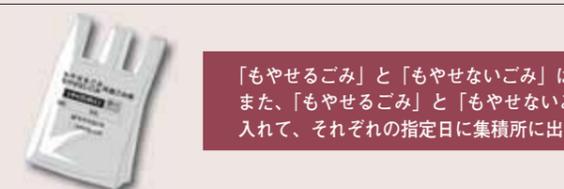
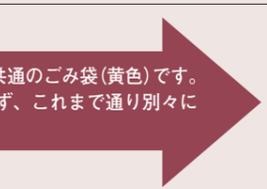
☎生活環境課 ☎22-1314

9月のごみ収集日程は下記の通りです。ごみはきちんと分別して、ごみの日の当日に出してください。また、ごみ袋は中身がこぼれないようにしっかり口を結び、簡単に解けないように出してください。テープ止めは禁止です。誤った袋で出されたごみは収集されません。誤って出してしまい収集されなかった場合は一度持ち帰り、正しいごみ袋に入れ直して、次の収集日に出してください。

### ◆9月のごみ収集日予定表（日付は9月の収集日です。10月上旬の収集日も掲載しています）

地区名	越 河 齋 川 大 平	大鷹沢 白 川 小下倉	大鷹沢田中	福 岡 小 原	市街東北本線 東 側	鷹 巣	市街東北本線 西 側
ペットボトル (第1曜日)	4日(火) (10/2)	3日(月) (10/1)	7日(金) (10/5)	6日(木) (10/4)	7日(金) (10/5)	3日(月) (10/1)	5日(水) (10/3)
びん類 (第2・第5曜日)	11日(火)	10日(月)	14日(金)	13日(木)	14日(金)	10日(月)	12日(水)
缶 (第3・第5曜日)	18日(火)	18日(火) に変更です	21日(金)	20日(木)	21日(金)	18日(火) に変更です	19日(水)
その他のプラスチック (第3曜日)	18日(火)	18日(火) に変更です	21日(金)	20日(木)	21日(金)	18日(火) に変更です	19日(水)
もやせないごみ (第4曜日)	25日(火)	24日(月)	28日(金)	27日(木)	28日(金)	24日(月)	26日(水)
紙 類 容器包装 プラスチック	火	月	金	木	金	月	水
	4・11・18・25 (10/2)	3・10・24 (10/1)	7・14・21・28 (10/5)	6・13・20・27 (10/4)	7・14・21・28 (10/5)	3・10・24 (10/1)	5・12・19・26 (10/3)
もやせるごみ	火・金	月・木	月・水・木	月・水・木	火・水・金		
	4・7・11・14・18・21・25・28 (10/2・5)	3・6・10・13・20・24・27 (10/1・4)	3・5・6・10・12・13・19・20・24・26・27 (10/1・3・4)	4・5・7・11・12・14・18・19・21・25・26・28 (10/2・3・5)			

- 不忘・川原子地区のもやせるごみは、毎週水曜日に収集します。
- ごみは、必ず当日の午前8時30分までに集積所に出してください（収集車が回収する時刻に合わせての搬出や、前夜出しはしないでください）。
- 「もやせるごみ」と「もやせないごみ」の袋は、中身がどちらかわかるよう袋の表に印をつけて出してください。
- びんは、色により3種類（①透明、②茶色、③その他）に分けて、それぞれ資源ごみの袋に入れて出してください。
- 缶類とプラスチック類は、それぞれに分けて資源ごみの袋に入れて出してください。
- スプレー缶や使い捨てガライターは、次のことをきちんと守ってごみ出しをしてください。
- ★スプレー缶などは、①中身を必ず使い切ること。②必ず穴を開けること（風通しの良い所で）。
- ★ガライターは、ガスを使い切ること。収集車の火災事故の原因になりますので、使い切っていないものは絶対に出さないでください。

	平成24年10月末まで	平成24年11月1日以降
もやせるごみ袋		
資源ごみ袋		

「もやせるごみ」と「もやせないごみ」は7月1日以降、共通のごみ袋(黄色)です。また、「もやせるごみ」と「もやせないごみ」は一緒にせず、これまで通り別々に入れて、それぞれの指定日に集積所に出してください。

これまでのごみ袋は10月末まで、袋の種類にかかわらず「資源ごみ袋」として使用できます。

これまでのごみ袋は、11月1日以降、使用できなくなります。

### 応募方法

1人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0292 白石市大手町1-1 白石市総務課へ。はがき一枚に短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

## 市民文芸

### 歌壇

岩崎 聰之介 選

みな底の砂をおどらす伏流水蔵王の裾に水芭蕉映す  
なれ雲何処へ行くか被災せし郷土の墓の空もとおるか  
目を開けず口きき得ざる母の老い足どり重く見舞いて帰る  
想い出は青葉わか葉の陽の匂い未来語り合い背伸びせし日や  
真夜中に聞こゆる線路の軋む音そろそろ梅雨も近づいたらん  
C.Tの不安に耐えて深呼吸吸うたなど口ずさんでみる  
朝毎に餌まきおけば愛らしく雀の親子口移しする  
前の路地に次つぎ咲かしたる花を剪り祖に供するを生き甲斐となす  
東の間の梅雨の晴れ間の水溜り鶴・雀とも水浴ぶ  
小雨降る青葉の小路歩みつつ白石城を友と仰ぎぬ  
末吉アツ子

【評】一首目、湧水帯の清冽な一処、水芭蕉の煌めきを写す。  
二首目、たやすくは行けそうにもない今、ふるさとや祖への思いが露する。「行くか」と「とおるか」と、畳み掛けもい。  
三首目、お母さまのいかにとし難い老い。作者のお気持ち、いたく伝わってくる。

### 俳壇

山家 弘子 選

五月雨や笹舟よゆけふるさとへ  
手話はまだ未熟なれども青林橋  
秋立つや城をそびらに横綱像  
風鈴の鳴るたび星の煌めきぬ  
山の茶屋大樹の蔭の心太  
羅の家紋めでたき米寿かな  
高子うこん

佐藤ユキ子  
服部 忠孝  
岩松 隆志  
和田 游稀  
岩澤 伍峯  
高子うこん

### 柳壇

四電英 夫 選

山裾の馬頭の塚や花茨  
蔵王のさみどりけける山開  
蛭を追ひかける子ら薬師堂  
青嵐に少女の帽子飛ばされし  
制野 リエ  
斎藤 典子  
別当内信夫  
佐藤 啓子

【評】一句目、原発事故で汚染された郷里を離れ白石で生活をしている。原発さえなければ美しい山河で一生を過ごせたものを。やりきれない悲痛な思いを笹舟に託し流したのである。  
二句目、耳が不自由に生まれた子が聴覚支援学校に入学し、家でも懸命に手話の練習をしている。その中に自由自在に自分の思いを伝えられるのである。青林橋の季節ピッタリ。  
三句目、立秋の空に白石城を背に横綱像が堂々と聳え立っている。お城に見劣りしないその姿に感服しているのである。

老いて尚名前は今もマドンナ会  
衣食住足りても不安老い独り  
家庭内住み分けをして丸く生き  
好奇心突つ込む首が抜けません  
仰ぎ見る金環食に口を開け  
モチモチと受話器の向こう孫の顔  
末吉アツ子  
阿部はぎの  
佐藤 啓子  
草野 清  
斎藤 典子  
遠藤 行夫  
寺崎 悦子  
高子うこん  
遠藤 松雄  
阿部みさ子

【評】一句目、若かりしころ発足したマドンナ会。何年経っても同じ名前を少し恥じている。でも歳はとつても気持ちだけは若くありたい。  
二句目、衣食足りて礼節を知るといふが、老化だけは誰にも止められない。長寿国日本、福祉国日本に課せられた永遠の課題か。  
三句目、二世帯同居するのが難しい時代。それぞれの域を越えず暮らすのが円満の秘訣か。スープの冷めない距離で：とは西洋の言い伝え。

### 「大会」

風間市長の風のそよぎ

今年4年に一度のオリンピックの年でした。皆さんも7月から8月にかけて、「ロンドンオリンピック」をテレビの前でははらしながら、選手たちのひたむきに頑張る姿を見ていたことと思います。

各国の選手は、オリンピックという晴れの舞台に立つために練習に練習を重ね、それぞれの予選を通過してきた母国を背負うアスリートたち。その戦いに参加するだけでも、容易なことではなく、名誉ある素晴らしいことです。その上、表彰式で国旗が上がった時には、国民としてとても誇らしく思います。

そうそう、スパッシュランドで練習を重ねてきた星奈津美さん。前回の北京オリンピックに続き、ロンドンオリンピックでも競泳女子バタフライの代表として出場しました。予選を通過し、決勝で見事3位、「銅メダル」に輝きました。その泳ぎから元氣と夢をいただきました。ありがとうございます。

また、7月29日に、「第47回宮城県消防操法大会」が登米市で開催されました。この大会は2年に一度行われる大会で、今年は仙南2市7町の消防団の代表として、白石市消防団が「小型ポンプ操法」の部に出場しました。これは5人一組で規律と操作の正確さ、的となる「火点」をいかに速く倒すかを競います。当日は晴天の上、とても暑い日で、選手は緊張と暑さとの戦いとなり、とてもつらかったことと思います。選手は今年の1月から、この大会に参加するため日々練習を重ねてきました。大平分団の中から精鋭10名を選び、チームAとBに分け、互いに切磋琢磨を重ねてきました。本大会に参戦したのはチームAで、最終選考でチームBは選手になれなかったのですが、その後もチームAとともに練習を止めることなく続け、ともに汗をかいてきました。

その結果、白石市消防団は3位という好成績を獲得することができました。それも、1位から3位までの得点差が0.5点と僅差。「金と同じ」と書いて「銅」。内容は金と同等であると思っっています。選手の皆さん感動をありがとうございました。また、当日は婦人防火クラブの方々、大平地区の方々などが多数応援に駆け付けてくださいました。あの暑さの中で力強い応援ありがとうございました。白石市消防団の皆さん、特に大平の分団員の皆さん、白石消防署の皆さん、本当にお疲れさまでした。敬意と感謝を申し上げます。

今回の結果はみんなが一丸となり成し得たことと思っっています。これからも予消防団に力を入れ、みんなが一丸となり白石から火事をなくすよう、お互いに汗をかいてまいります。さらに、一丁有事の時には日ごろの訓練を生かし、市民の生命財産を守るよう、今後も活動していただくことを切に願います。市民の皆さんも、日ごろから火の用心を忘れることのないようお願いいたします。